

「2023年度国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学農学部1年 原田 茉優

私は第二外国語で中国語を選択していない完全な初心者であり、プログラムへの参加に対する不安は大きかった。実際、授業初日にドリンク店を訪れた際は中国語が全く話せず、指差しのみで注文せざるを得なかった。しかし、授業最終日には同じお店で中国語の注文を一人でできるまでに成長できた。これは、NTUでの中国語の授業やNTU学生との交流を通してアウトプットの機会を十分に得ることができたからだと思う。中国語の授業では初心者用のクラスに入ったが、初めから実践的な会話を練習する形式の授業だった。少しずつ単語を変えながら同じ文型を繰り返し学習できるため、日を追うごとに話せる文章や単語が多くなっていくのを実感できた。発音や声調の誤りは、週に3日ほどのTutor StationでStudent Assistantが正してくれた。また、以前からの友人と食事に行った際には、英語で会話する中でも、中国語で話せる内容は中国語で話すように心がけた。このように、周りの方々が手厚いサポートをしてくださったため、楽しみつつも充実した中国語学習が行えた。

今回のプログラムで唯一後悔しているのは、気候ごとの植生の違いに興味があるにも関わらず、渡航前に台湾の植生について知識がなかったことである。自分の目で日本との違いを確認できる機会をいただいたにも関わらず、それを有効活用できなかったことに悔恨が残る。留学・旅行に関わらず海外に渡航する際は、渡航先における自分の興味分野について、ある程度理解を深めておくことが必要だと感じた。

今回の派遣を通して得られた最大の成果は「人との繋がり」である。留学をすることで自分の国を外から見ることができ、日本や国際社会についての理解を深めるきっかけを得ることができる。私の場合、宿泊先で出会った学生や同じプログラムの参加者は世界の現状についての造詣が深く、国際社会に関するディスカッションが自然に生じる環境であった。学部や興味分野が異なる学生とディスカッションを繰り返す中で、私には日本の歴史・文化・政治・課題に対する理解が不足していることを自覚できた。例えば「日本人はこの歴史的事実についてどのように学んでいるのか」「現在の日本でこのような文化が流行しているのはなぜなのか」「なぜ日本の大学の男女比は改善されないのか」といった問いに対して、主観を述べることはできても明確な根拠や事例を示すことができなかった。このように国際的な関係性を築いていく上で足りていないものを自覚できたことは、長期留学を控えており、国際環境政策に関心がある私にとって大きな成果となった。多様なバックグラウンドを持った学生との出会いは自分の考え方を広げるチャンスであり、彼らと繋がり続けることは自分の学びを続けていく原動力になると思う。今回得られた「人との繋がり」を今後も大事に育んでいきたい。

最後に、このような貴重な機会をくださった皆様に心から感謝申し上げます。